

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 16 日現在

機関番号：23503

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370047

研究課題名(和文)中国方術理論の遡及的考察

研究課題名(英文)Historical study of Chinese Fang-Shu theories.

研究代表者

名和 敏光 (NAWA, TOSHIMITSU)

山梨県立大学・国際政策学部・准教授

研究者番号：30291868

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：

中国には古来より多種多様な占術が考案され、中世近世には膨大な数の占術書、術数書が著された。それらは社会に広く浸透し、曆注などとして今日に至るまで存続しており、東アジアの伝統文化を特色づける一大要素である。その占術の学問的輪郭や数理構造は、これまでほとんど研究されていないが、その理論的淵源は、近年に出土した一群の「日書」によって先秦の方術まで遡ることが判明した。

そこで本研究では中国における占術書、術数書を総合的に考究するための基礎的研究として「日書」文献を取り上げ、その方術理論を構造的に把握し、中世近世的な展開を検討することで、中国占術理論の形成過程や思想的、社会的な影響を探り明らかにした。

研究成果の概要(英文)：

Throughout the history of China, there are numerous books studying various divinations such as Yi divination, astrology, position and date selection. Those books have had wide impact on Chinese society, while Yi divination, Four Pillars of Destiny, as well as divining Almanac are still in use nowadays and together become an important constituent of traditional culture in East Asia. Although there are very few panoramic or structural studies on these divinations, the origination of Fang-Shu has been proved to be back to pre-Qin Dynasty according to the discovery of Ri-Shu in recent years.

In this article, we will do a preliminary study of Chinese Fang-Shu books, as well as a structural study of these Fang-Shu theories based on bibliographies such as Ri-Shu; we will also discuss the formation process and ideological and sociological influence of Chinese divination theories, from the middle periods to the early modern period.

研究分野：中国哲学

キーワード：出土資料 日書 術数学 方術思想 陰陽五行 馬王堆漢墓帛書 医書 国際研究者交流(中国)

1. 研究開始当初の背景

中国の占術は、易占、天文占、風占い、相術、夢占い等に加えて、六壬、遁甲、太一、九宮、孤虚といった特有の技法が考案された。また、生年占い、方位占いや穀物占等は、中世、近世の東アジア世界に大いに流行した暦注や風水術に応用され、世俗に広く浸透し、易占、四柱推命等は、今日の社会においても依然として存続している。それらの占術に関しては、日本では中村璋八、坂出祥伸、三浦國雄諸氏によって中国思想史的なアプローチで先駆的な研究がなされているほかに、日本の陰陽道研究、道教研究のフィールドワーク調査において、個別的、離散的に研究されているが、中国占術の学問的枠組みや数理構造について、総合的な見地からの本格的な研究はまだなされていないように思われる。

その理論的根幹は、日本に残存する『五行大義』や陰陽道、暦道資料によって、中世社会の術数書において形成されたと推察される。ところが、近年に大量に出土した先秦から漢初に至る竹簡、帛書によって、その淵源がさらに先秦の方術にまで遡ることが判明した。とりわけ、「日書」と呼ばれる一群の文献には、具体的な占術が多様に論述され、しかもそれらの大部分が中世、近世の占術書、術数書に継承されており、大いに注目される。その方術理論について、当時の陰陽五行説、天文律暦学との関連性を明らかにしながら構造的把握を試み、中世、近世の史的展開、変容過程を考察すれば、これまで未開拓な領域であった中国占術を総合的に研究する突破口が得られるように思われる。

2. 研究の目的

本研究では、これまで中国において発見さ

れた出土資料のうち、特に「日書」に視点を置き、それらの全体像と理論構造について、現存する後世資料（唐以降の方術文献・日本の陰陽道資料等）から遡及的に検討し、中国古代（戦国、秦、漢）の社会・文化・思想の様相を通時的・共時的に解明して行くことを目的とした。

3. 研究の方法

分担者である武田の後世の方術理論の研究と名和の出土資料である「日書」に基づいた古代の方術思想の研究の両者をリンクさせるというこれまで行われてこなかった独創的な研究方法により、両名のこれまでの研究成果を踏まえ、更に発展した形で、「日書」に視点を置き現存する後世資料（唐以降の方術文献・日本の陰陽道資料等）から遡及的に検討することにより、中国古代（戦国、秦、漢）の社会・文化・思想の様相を通時的・共時的に解明しようと考えた。

4. 研究成果

(1)2013 年度

①中国古代占術の中で漢初の占術理論を記述した馬王堆帛書の占術書を主として考察した。とりわけ、『陰陽五行乙篇』について発表された写真版により本文を復元し、内容を分析し、その文献構造について考察し、「馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》乙篇の構造と思想」に纏め公表した。また清華大学蔵戦国竹簡「傳説之命」の研究を訳注・論考として公表した。また、日本近世の年号勘文に関わる研究を翻刻・考察として公表した。『出土文献と秦楚文化』第7号を、上海博楚簡研究会と協力して刊行した。

②中国古代占術を研究するために、関連文献

の電子テキスト化に着手し、主要文献のテキスト化を行った。対象として取り上げたのは、馬王堆帛書（『陰陽五行甲篇（式法）』『陰陽五行乙篇』『出行占』）、放馬灘秦簡日書、隨州孔家坡漢簡日書、睡虎地秦簡日書等である。また、後世の『天地瑞祥志』等も一部集録した。

③分担者及び協力者との連絡が円滑に行える様にメーリング・リストを作成した。また、分担者・研究会参加者相互の意思の疎通を円滑にするために、研究打ち合わせ会を開催した（全9回）。京都大学人文科学研究所研究班「術数学研究会」と連携し、研究討論会を開催（全9回）した。上海博楚簡研究会と連携し、「出土資料と漢字文化研究会」を開催（全6回）した。天地瑞祥志研究会と連携し、研究討論会を開催（全10回）した。

④2013年度は国際的に日中韓の研究者と協力してネットワーク作りを推進した。海外の国際学会に4回参加し、学术交流及び研究報告を行った。清華“清華簡”国際學術研討会（ダートマス）、東アジアにおける術数学への多角的アプローチ（ソウル），“簡帛《老子》与道家思想”国際學術研討会（北京）、清華簡与《詩經》研究国際會議（香港）。

(2)2014年度

①名和と武田は、9月に上海出張して上海交通大学、復旦大学出土文献与古文字研究中心にて講演を行い、科学史研究、簡帛研究思想史における科学と占術の複合領域としての術数学研究の意義を提言し、日中共同研究プロジェクトの立ち上げを推進した。その後、復旦大学の研究者5名を関西と東京に招聘して出土文物の合同調査を行った。また、日本道教学会、中国出土学会と共催イベントとして中国占術・術数学に関する国際ワークショップ

を企画し、国際的な研究者ネットワークの構築を図った。

②2014年度は、名和は、5つの国際会議に招聘され、5回の報告・講演を行うことができた。福岡で行われた第2回世界漢字学会では、『詩經』の「深」字について出土資料に基づき文字の考察を加えた。上海交通大学で行われた科学史与科学文化研究院国際学术交流報告会及び復旦大学で行われた術数学ミーティング2014では、分担者の武田教授とともに報告を行った。武田教授の主催する研究班では「馬王堆漢墓帛書の整理状況と『陰陽五行甲・乙篇』の新たな釈文について」報告し、2015年度に向けた準備を行うことができた。また『長沙馬王堆漢墓簡帛集成』の出版に伴い開催された「紀念馬王堆漢墓發掘四十周年国際學術研討会」に参加できたことは、今後の研究を行う上で非常に有意義であった。

③武田は、2つの国際会議に招聘され、2回の報告・講演を行うことができた。

(3)2015年度

①中国古代占術の中で漢初の占術理論を記述した馬王堆帛書の占術書を主として考察した。とりわけ、『陰陽五行甲篇』について発表された写真版により本文を復元し、内容を分析し、その文献構造について考察し、「馬王堆帛書《陰陽五行》甲篇整体結構的復原」等に纏め公表した。

②分担者・研究会参加者相互の意思の疎通を円滑にするために、研究会及び打ち合わせ会を開催した（全6回）。京都大学人文科学研究所研究班「術数学研究班」「東アジア伝統医療の多角的研究班」と連携し、研究討論会を開催（全6回）した。上海博楚簡研究会と連携し、「出土資料と漢字文化研究会」を開催（全

5 回) した。天地瑞祥志研究会と連携し、研究討論会を開催 (6 回、合宿 1 回) した。中国出土資料学科と連携し、例会・大会に各一名、合計三名の研究者を中国から招聘し、報告を行ってもらい、学術交流を行った。

③2015 年度も国際的に日中韓の研究者と協力してネットワーク作りを推進した。海外の国際学会に 4 回参加し、学術交流及び研究報告を行った。《長沙馬王堆漢墓簡帛集成》修訂国際研討会 (上海)、出土文献与先秦經史国際学術研討会 (香港)、第五届中国道教科学技術史国際学術研討会 (四川)、復旦大学出土文献与古文字研究センター訪問・調査・学術交流。2015 年度は『陰陽五行甲篇』の復元と全体構造の再構成を行い、上海では「馬王堆帛書《陰陽五行》甲篇整体結構的復原」及び「馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《道》《雜占之四》綴合校釈」の 2 本の論文、香港・四川では「馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《雜占之一》《天一》及《諸神吉凶》下半截綴合校釈」及びその修訂論文を発表した。また、昨年香港で発表した「〈深入其阻〉攷」を『清華簡研究』第二輯に掲載した。

④武田は、名和とともに四川の国際会議に招聘され、2 つの報告・講演を行うことができた。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 39 件)

①武田 時昌、東アジアの万能薬、斯文、査読有、128、2016、41-67、

②名和 敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《雜占之一》《天一》及《諸神吉凶》下半截綴合校釈 (修訂版)、第五届中国道教科学技術史国際学術研討会會議論文集、査読有、四

川大学、2015、184-194、

③名和 敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《雜占之一》《天一》及《諸神吉凶》下半截綴合校釈、出土文献与先秦經史国際学術研討会會議論文集、査読有、香港大学、2015、130-142、

④名和 敏光、〈深入其阻〉攷、清華簡研究、査読有、2、2015、285-287、

⑤名和 敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《道》《雜占之四》綴合校釈、《長沙馬王堆漢墓簡帛集成》修訂国際研討会會議論文集、査読有、復旦大学、2015、168-196

⑥名和 敏光、廣瀬 薫雄、馬王堆帛書《陰陽五行》甲篇整体結構的復原、《長沙馬王堆漢墓簡帛集成》修訂国際研討会會議論文集、査読有、復旦大学、2015、197-208、

⑦武田 時昌、科学探索群体与道教文化、第五届中国道教科学技術史国際学術研討会會議論文集、査読有、四川大学、2015、281-286、

⑧名和 敏光、本藏医学漢籍与新發現医書簡介、中医学雜誌、査読有、2014 特刊、2014、1-10、

<http://www.nricm.edu.tw/jcm/25/25spci1-1.pdf>、

⑨名和 敏光、中国古代の占いと祈り、古代東アジア世界の祈り、査読無、森話社、2014、247-263、

⑩名和 敏光、“深”字攷、第 2 回世界漢字学会論文集、査読有、2、2014、243-252、

⑪名和 敏光、馬王堆、地下からの贈り物、査読無、東方書店、2014、234-239

⑫名和 敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》乙篇の構造と思想、『術数学の射程 東アジアの「知」の伝統』、査読無、京都大学人文科学研究所、2014、78-91、

⑬武田 時昌、張替俊夫、『九章算術』訳注稿

(16)、大阪産業大学論集 人文・社会科学編、
査読有、23、2014、68-99、

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009884162>、

⑭武田 時昌、小寺 裕、張替 俊夫、『九章算術』訳注稿(15)、大阪産業大学論集 人文・社会科学編、査読有、22、2014、1-30、

<http://ci.nii.ac.jp/lognavi?name=nels&lang=jp&type=pdf&id=ART0010358745>

⑮武田 時昌、岳麓書院藏秦簡『数』訳注稿(6)、大阪産業大学論集 人文・社会科学編、査読有、21、2014、1-16、

<http://journal.osaka-sandai.ac.jp/result/pdf.php?ipdf=751>、

⑯武田 時昌、古本草書の還流現象、東アジア人文情報学研究センター研究年報、査読無、3013、2014、25-31、

⑰武田 時昌、天の時、地の利を知る科学、尾池和夫・竹本修三編『天地人 三才の世界』、査読無、マニュアルハウス、2014、395-415、

⑱武田 時昌、東アジアの万能薬—近世方剤学の術数学的要素、術数学の射程 東アジアの「知」の伝統、査読無、京都大学人文科学研究所、2014、3-14、

⑲名和 敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》乙篇の構造と思想、中国出土資料学の展開、査読無、汲古書院、2013、202-214、

〔図書〕(計2件)

①武田時昌、名和敏光、他16名による共著、京都大学人文科学研究所、『術数学の射程 東アジアの「知」の伝統』、2014、231、

②出土文献と秦楚文化研究会(名和敏光)編、出土文献と秦楚文化研究会(名和研究室)、『出土文献と秦楚文化 第七号』、2014、120、

〔学会発表〕(計24件)

①武田 時昌、言は意を尽くさず—中国的不可知論、形の文化会第63回フォーラム&術数学合同研究会(招待講演)(国際学会)、2015年12月19日、京都大学人文科学研究所本館セミナー室4(京都府京都市)、

②名和 敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《雜占之一》《天一》及《諸神吉凶》下半截綴合校釈(修訂版)、第五届中国道教科学技术史国際學術研討会(招待講演)(国際学会)、2015年12月5日、四川大学望江校区行政樓(中国四川省成都市)、

③武田 時昌、科学探索群体与道教文化、第五届中国道教科学技术史国際學術研討会(招待講演)(国際学会)、2015年12月5日、四川大学望江校区行政樓(中国四川省成都市)、

④武田 時昌、東アジアの万能薬、第51回神農祭記念講演会(招待講演)、2015年11月23日、斯文會館講堂(東京都文京区)、

⑤名和 敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《雜占之一》《天一》及《諸神吉凶》下半截綴合校釋、出土文献与先秦經史国際學術研討会(招待講演)(国際学会)、2015年10月17日、香港大学中文學院(香港大学百周年校園)、

⑥名和 敏光、馬王堆帛書《陰陽五行》甲篇全体構造の復原について、術数学国際シンポジウム(招待講演)(国際学会)、2015年8月1日、京都大学人文科学研究所本館4階大會議室(京都府京都市)、

⑦名和 敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《道》《雜占之四》綴合校釈、《長沙馬王堆漢墓簡帛集成》修訂国際研討会(招待講演)(国際学会)、2015年6月28日、上海市復旦大学(上海市白玉蘭賓館)、

⑧名和 敏光、廣瀬薫雄、馬王堆帛書《陰陽五行》甲篇整体結構的復原、《長沙馬王堆漢墓

簡帛集成》修訂国際研討会（招待講演）（国際学会）、2015年6月28日、上海市復旦大学（上海市白玉蘭賓館）、

⑨名和 敏光、馬王堆漢墓帛書の整理状況と『陰陽五行甲・乙篇』の新たな釈文について、京都大学人文科学研究所術数学研究班（招待講演）、2014年10月4日、京都大学人文科学研究所本館4階大会議室（京都府京都市）、

⑩名和 敏光、中国の占術と日本の占術、東アジア伝統科学研究の新たな地平（招待講演）（国際学会）、2014年9月24日、上海交通大学（中国上海市）、

⑪名和 敏光、“深”字攷、第2回世界漢字学会（招待講演）（国際学会）、2014年8月26日、福岡市博多区、

⑫武田 時昌、納音数理考、術数学東京ミーティング2014、2014年3月28日、大正大学巣鴨校舎（東京都豊島区）、

⑬名和 敏光、〈深入其阻〉攷、清華簡与詩經研究国際会議（招待講演）（国際学会）、2013年11月1日、浸会大学（香港）、

⑭武田 時昌、東アジアの万能薬—近世方剤学の術数学的要素、日韓術数学シンポジウム「東アジアにおける術数学への多角的アプローチ」（招待講演）（国際学会）、2013年9月14日、円光デジタル大学ソウルキャンパス（韓国ソウル市）、

⑮名和 敏光、清華大学蔵戦国楚竹書「筮法」等簡介、日韓術数学シンポジウム「東アジアにおける術数学への多角的アプローチ」（招待講演）（国際学会）、2013年9月14日、円光デジタル大学ソウルキャンパス（韓国ソウル市）、

⑯名和 敏光、清華大学蔵戦国楚竹書「傳説之命 下」研究、清華“清華簡”国際學術研討会（招待講演）（国際学会）、2013年8月

31日、ダートマス大学（アメリカ合衆国ニューハンプシャー州ハノーバー市）、

6. 研究組織

(1) 研究代表者

名和 敏光(NAWA, Toshimitsu)

山梨県立大学・国際政策学部・准教授

研究者番号：30291868

(2) 研究分担者

武田 時昌(TAKEDA, Tokimasa)

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：50179644